

七尾市最高齢 105歳誕生日おめでとうございます

～坂山ハツエさん～



6月17日(日)：なごみの里鹿島（中能登町）

七尾市の最高齢105歳を迎えたハツエさん。家族や入所者などを合わせて約50人がハツエさんを祝った。5人兄弟の長女で、結婚後は農業を営みながら5人の子どもを育てた。これまで大きな病気がなく肌の艶も美しい。長女の受川定子さんは「掃除好きで几帳面な性格で、子どもの頃は厳しく育てられた」と当時の思い出を話してくれた。ハツエさんは大勢の人から祝福を受けると笑顔がこぼれていた。いつまでも長生きしてください。

空手の全国大会で入賞を報告

～来年こそは優勝を目指す～

6月28日(木)：七尾市役所

全日本少年少女空手道選手権大会に初出場し、準優勝した竹島来晟君（山王小学校1年生）と第3位の川端優作君（天神山小学校1年生）が市長に成績を報告。全国各ブロックの大会を勝ち抜いた上位2人ずつが全国の舞台で技を競い合った。2人は親友で保育園児のときから毎週2、3回の稽古に励む。痛みを伴うスポーツのため、最初は泣きながら稽古をしていたという。「子どもが真剣に取り組み、日々成長していく姿を見るのが楽しい」と川端君のお母さんは応援にも熱が入る。お互い切磋琢磨し、来年こそは優勝を目指してほしい。



交通安全子供自転車石川県大会で初優勝

～目指すは全国制覇～



7月10日(火)：市役所

高階子ども自転車クラブの8人が、第44回交通安全子供自転車石川県大会で初優勝を果たした。団体の部でAチームが優勝、Bチームは4位入賞。個人の部は、優勝、3位、6位入賞と輝かしい成績を残した。メンバーは、8月1日東京で行われる全国大会に向けさらに練習に励む。代表の宮下聖矢君は「練習はつらかったが、優勝をすることができた。コーチ、両親のおかげです。全国大会では思いっきり競技したい」と抱負を語った。目標の全国制覇を目指してがんばってほしい。



6月24日(日): フォーラム七尾

七尾市で行われる親子ふれあいイベントの中で、一番人気がある「わくわく親子ひろば」。今年も多くの親子連れが詰め掛けた。オープニングはあかくら保育園と徳田保育園のダンスで始まり、来場者は大きな手拍子をして盛り上がっていた。また、会場では魚釣りやバルーンアートなど10種類以上のゲームコーナーがあり、子どもたちは大興奮。「すごく楽しかった」と親に話す子どもがいて、親子がふれあう楽しいひとときとなったのでは。

第9回わくわく親子ひろば

～家族そろってみんな楽しく～



6月21日(木): 山田重隆さんの水田 (藤橋町)

色の異なる稲を使って、巨大な絵を作り出す田んぼアートに長年取り組む山田重隆さんの水田で、本宮保育園の園児10人が田植えに挑戦。黒米、赤米などの古代米を含む6品種の苗は、5月24日に園児自らが種まきを行ったもの。古代米や農業に興味を持ってもらう目的で、今年で14回目。「土の中はひんやりして気持ちよかった」と園児は楽しそうだった。今後は、水田の草取り、稲刈りを行い収穫された米で餅つきなどを体験する。

古代米の田植え体験

～田んぼアートに挑戦～



6月26日(火): ひまわり保育園 (千野町)

市民のねがい推進協議会が、市民のねがいー七尾市民憲章を広く知ってもらうため、市内24園に「市民のねがい」と書いたプランターを贈呈。この日は、マリーゴールドなど、4種類の花をひまわり保育園の玄関に飾った。このプランターの花は、6月23日に協議会のメンバー30人が気持ちを込めて植えたもの。都正子園長は「市民憲章の大切さを園児たちに伝えていく」と話した。これを機会に園児にもしあわせの和が広がってほしい。

保育園・幼稚園(全24園)に「市民のねがい」プランターを一斉贈呈

～しあわせの和が広がって～



6月25日(月): 七尾東部中学校

七尾東部中学校生徒22人や七尾人権擁護委員協議会メンバーなどが「人権の樹」を植樹。この取り組みは、生徒に思いやりの心を持ってもらうことが目的。植樹されたのは高さ2メートル近くのキンモクセイで、「人権の樹」と書かれた標柱が立てられた。毎年秋には花が咲き、香りが漂う場所となる。生徒会長の山元実奈さんは「支え合って生きていくことを後輩に伝えていきたい」と話した。生徒には、思いやりの心を持つ大人になってほしい。

人権の樹・育てるつどい

～思いやりの心を持つ大人へ～



7月5日(木): 徳田小学校

徳田小学校4年生48人は、赤ちゃん41人とコミュニケーションを深めた。人間関係を築き、命の大切さを学ぶことが目的。赤ちゃんを初めて触る児童が多く、最初は恥ずかしそうにしていた。児童は、赤ちゃんを笑わせようと足の裏や脇をくすぐり、弟や妹ができた気分。叶田知愛さんは「赤ちゃんの体はやわらかくて気持ちよかった。幸せそうな顔をしてくわい」と笑顔で話した。児童は命の大切さを再確認する機会となった。

徳田小学校赤ちゃんふれあい教室

～命の大切さを学ぶ～



7月2日(月): 千寿苑

「知らず知らずのうちに100歳になってしまったわいね。自分でもびっくりやわ」と100歳となった今の気持ちを話すきくぬさん。100歳となった今でもしっかりと話され、お祝いに訪れた武元市長にも笑顔で冗談を話すくらい元氣そのもの。5男の中瀬芳昭さんは「母は、よく働き、よく食べる。勝気な面と優しい面を持つ人です」ときくぬさんの人柄を話した。元氣いっぱいなきくぬさん。これからも元気で長生きしてください。

100歳誕生日おめでとうございます

～中瀬きくぬさん～